

謹賀新年



くみあいだより

JAなんぽろ



JAなんぽろホームページアドレス <https://www.ja-nanporo.or.jp>



南幌町農業協同組合

新年ご挨拶



南幌町農業協同組合
代表理事組合長
林 裕司

新年あけましておめでとうございます。

組合員の皆様には輝かしい新春を、ご家族皆様で健勝で迎えられましたことと心よりお慶び申し上げます。

平素よりJA各事業の運営に對しまして、組合員をはじめ、南幌町、各関係機関の皆様にご支援、ご協力を賜っておりますことに、心より厚くお礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、4月13日に開幕した大阪・関西万博は2,500万人を超える来場者となり、インバウンドによる効果もあり、想定を超えて盛況のうちに終わる結果となりました。そのような中、主食である米についてはインバウンド需要の大幅な増加に加え、作況指数と実際の収量との乖離等による不足感もあり、買い溜めなどを要因として価格が急上昇し、令和7年産米の価格は高値で推移している状況であります。

昨年の営農にあつては、融雪期は平年並であり、積雪期間は109日で平年よりやや長くなりました。その後、6月から気温が高くなり、8月までにおける30度を超える真夏日が25日(35度以上の猛暑日2日を含む)となり、7月上旬は少雨傾向でしたが、7月中・下旬、そして9月中旬には台風の影響により、まとまった降雨がありました。

水稲は、春作業が降雨により遅れるなど苦労しましたが、移植後は高温・多照で推移し、初期茎数は平年より多く、その後も天候が良く幼穂形成期は平年より3日早くなり、出穂期も6日早くなりましたが、生長期間が短縮されたことで茎数および穂数が平年より少なくなった結果、総粒数は前年よりも減少し、10月25日時点での作況単収指数は北海道「98」、南空知で「101」となり、全体的な単収は前年産を下回る結果となりました。集荷実績では133,592俵、出荷契約対比では107.2%となりましたが、前年よりも13千俵ほど出荷が少ない結果となっております。品質面においては猛暑ではありましたが、直播用品種「えみまる」を中心に粒歩合が高く良品質であり、タンパク値においては、「ゆめぴりか」で基準内品53.8%と、昨年の49%より高い入庫で終わりました。

小麦は、6月から気温も高く、前年よりも早く生育が進みましたが、降雨が少なかったことなどが影響して穂数も平年より

少なく、「きたほなみ」7.9俵、「ゆめちから」9.5俵、「はるきりり」7.2俵と製品単収は総じて前年を下回った結果、全品種合計では8.4俵と昨年より約1俵減収しています。また、大豆をはじめ、他の畑作物や蔬菜についても春先は干ばつ傾向の影響もありましたが、その後は回復して生育も早まり、大きな自然災害も無く、概ね農産物全般にわたり平年並みの出来秋を迎えられ、たくさんさんの農産物の出荷をいただいたほか、JA各事業をご利用いただいたことに対して重ねて厚くお礼申し上げます。

一方、農業生産の現場では慢性的な労働力不足の状況となっているほか、国際紛争や新政権発足に伴う経済対策に起因した円安の影響を受け、国内で生産する農産物においては生産コストが高騰している中、安定的・持続的に農産物の生産を行うため、JAグループ一丸となって再生産可能な価格形成の必要性を、消費者にご理解いただくための取り組みを行ってきたところで

す。また、国際情勢の不安定な状況を目の当たりにし、食料安全保障の重要性について改めて認識された方も多かった事と思えます。これからも国内農業やJAに対する幅広い理解と共感を得る取り組みを積極的に進めていくことが重要であるとともに、目まぐるしく変わる農業政策に的確に対応し、組合員皆様の負託に応えるべく、農家経済と農協経営の好循環に向けた構造を確

立することが不可欠であると考えております。

そのような情勢の中、第31回JA北海道大会で決議されたJAグループ北海道の将来ビジョン「『力強い農業』と『豊かな魅力ある地域社会』をひとを育み、ひとと歩む』を踏まえて作成し、令和8年度に2年目を迎える第16次農協事業中期3カ年計画Circle(サークル)に掲げる「持続可能な南幌町農業とJA経営基盤の確立」を実践するため、経営理念である「JAなんぼろは、最幸の信頼・利用・満足を実現し、組合員と地域社会に安心を届けます」を役員全員との理念として、組合員および地域社会との絆を深めるとともに、農業所得の安定的な確保に向けて「適正な輪作体系による収量の増加」と「品質向上・安定生産に向けた取り組み」を実現するとともに、地域の食と農を支える協同組合であること、を今一度認識し、担い手とともに魅力ある南幌町農業の実現に向けて農協事業運営に取り組んで行く所存でございますので、組合員の皆様にも協同組合の意義を改めてご理解いただき、より一層の結果、並びにJA全事業の積極的なご利用をお願い申し上げます。

結びになりますが、ご家族はじめ組合員皆様、事故や怪我なくご健康とご多幸で過ごされ、災害の無い稔り多い1年となりますよう、心からご祈念申し上げます、年頭のご挨拶といたします。



令和8年の 年頭にあたり



北海道農業協同組合中央会
代表理事会長
樽井 功

新年あけましておめでとうござい
ます。

組合員の皆様におかれましては、
日々営農に更に邁進されておられる
ことと存じます。

また、組合員・役職員の皆様が一丸
となり地域農業の振興や地域社会の
発展に向け、日頃より多大なご尽力
をされていることに対しまして、改
めて敬意と感謝を申し上げる次第で
あります。

昨年の北海道農業については、春
先から天候に恵まれ、各作物の生育

は全般的に平年よりも順調に推移し
ておりましたが、道内の広範囲にお
いて被害が発生した夏場の記録的な
豪雨や干ばつにより各作物等の収量
および品質に影響が出た一年となり
ました。

近年、気候変動等による自然災害の
多発や栽培適地の変化、円安基調の
継続や国際紛争等に起因する資材価
格の高止まりが農業経営に大きな影
響を与えており、農業・農村を取り巻
く環境は大きな変革期を迎えており
ます。

この様な状況の中、昨年7月に実
施された参議院議員選挙において、
組合員・JA役職員をはじめとする
多くの皆様のご支援をいただき、全
国農業者農政運動組織連盟が推薦し
た東野ひで氏を国政に送り出すこ
とができました。

この一步を重要な礎とし、改正基
本法により基本理念として位置付け
られた、国民一人一人の食料安全保
障の確保や環境と調和のとれた食料
システムの実現、持続可能な北海道

農業の確立に向けて、組合員・JAの
声を国政に届ける活動を継続してい
きます。

JAグループ北海道は、今後とも
組合員との対話活動を一層強化し、
協同組合の理念と精神を組織結集力
につなげ、組合員の皆様が夢と希望
を持つて営農と生活が続けられる環
境を整え、「力強い農業」と「豊かな魅
力ある地域社会」の実現に全力で取
り組んでまいります。

結びになりますが、本年は午年で
す。午年はエネルギーと行動力が高
まり、挑戦や成長の機会が得られる
年とされています。この謂われにあ
やかり、本年が北海道農業の更なる
飛躍の年となることと、皆様のご多
幸とご健勝をご祈念申し上げ、年頭
のご挨拶といたします。



謹賀新年

代表理事組合長

林 裕司

専務理事

高島 茂和

常務理事

笹島 忍

理 事

瀬川 徹

高橋 健治

白倉 崇史

小林 弘孝

岩崎 正範

奈良岡勝利

畠山 高

代表監事

白倉 隆幸

常勤監事

辻崎 徹

監 事

武田 政俊

小林 信昭

新年の挨拶



JAなんぼろ青年部
部長
若杉 宗樹

新年明けましておめでとうございます。

日頃より青年部活動に際しまして、各関係機関の方々並びに組合員の皆様にはご理解とご協力を頂いておりますことを厚くお礼申し上げます。

昨年は、アメリカ大統領にトランプ氏が就任し相互関税が発表され、ウクライナ情勢の動きは変わらず、中国の輸出入規制なども強まり、歴史的円安が今もなお続くなど、国際情勢は揺れ動き、我が国の燃料や肥料・飼料、資材や機械の価格高騰をさらに進める出来事が多く、農業経営への影響がいまだに大きい状況です。

そのような情勢の中、国内ではコメの価格高騰による政府備蓄米の放出、食料供給困難事態対策法が施行され我々農業者が担う責任はさらに大きいものとなるでしょう。また、日本初の女性総理が誕生し農林水産大臣が二度も変わるなど国政の方向が二転三転して

いる中、国政の場に北海道農業者を代表して東野氏を送り出し、これを足掛かりとしてこれからのために国政と生産現場、消費者の方、国内全体でお互いの理解を早急に深めることが必要であると感じます。

昨年度の生育状況としましては、春の雪解けは早く、生育については全般的に例年より早く推移し高温、猛暑日もありましたが生産者の適切な栽培管理により主要作物である水稻、小麦や大豆は質、量ともに概ね良好という作物となり、総じて良い出来秋を迎えられました。

また、昨年度の青年部活動を振り返りますと、盟友数が少ないながらも思っていた以上に活動することができました。スノーメッセージ作成から始まり各研修会や町内外の消費者との交流、町内幼稚園での食育活動など様々な活動を行うことができました。

今年度は、盟友数の減少に伴い青年部活動全体の見直しを行い新しい青年部を築き上げ、南幌町農業に貢献していきたいです。そして我々青年部は交流から生まれる新たな可能性を原動力にこれからも食と農の大切さを伝えていけるよう尽力してまいります。

最後になりますが、本年も各関係機関、組合員の皆様方には、指導、ご鞭撻のほど宜しく申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年の挨拶



JAなんぼろ女性部
部長
小谷 泰子

新年あけましておめでとうございます。

日頃より女性部活動に対しまして、各関係機関の方々並びに組合員の皆様には、特段のご理解とご協力を賜り厚く感謝申し上げます。

今年度の女性部活動にもたくさんの方の皆様に参加いただきました。

6月の視察研修では、小樽で和菓子作り体験をし、かま栄工場見学や買い物、散策、ランチビュッフェと楽しい時間を過ごしました。フレッシュミズ研修では、砂川のSHIROへ行きました。カフェでのランチ、オリジナル商品の購入など楽しめたようで、フレッシュミズ部員独自の発想で計画した研修でしたので参加者も多く、今後交流を深め活動してほしいと思います。

8月にはJA夜まつりで女性部として初めて出店し、南幌町産ゆめぴりかの米粉で作ったみたらし団子を販売し

ました。大好評で完売したことをうれしく思います。

11月にはなんぼろ温泉で懇談会を行い、地域貢献活動の雑巾づくりと東洋羽毛北部販売株式会社より快眠生活アドバイザーの方をお呼びし、良い眠りについてのお話をいただきました。ひとりひとりに合ったアドバイスを受け、睡眠の大切さを実感しました。おいしい昼食をとり温泉でゆっくりしていただき、楽しい一日を過ごすことができました。縫っていたいただいた雑巾は町内の施設へ寄贈します。ご協力ありがとうございました。

今年度残りの活動としては、1月に食育活動として南幌小学校6年生との餅つき体験を青年部の皆様のご協力もいただき、実施する予定です。2月には女性部大会を開催します。特殊詐欺への対処法について、正しい姿勢での歩き方についての講演をしていただく予定です。今後も、ひとりでも多くの女性部員の皆様に楽しく参加していただきたいと思いますよう役員一同考えてまいります。

最後になりますが、本年も各関係機関、組合員の皆様方には、女性部活動に対し、ご協力と引き続きご指導のほどよろしくお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

営農振興組合長会研修会開催

11月21日（金）、第7回営農振興組合長会議終了後に営農振興組合長会研修会を開催しました。研修会は21名が参加し、苫小牧市のトヨタ自動車北海道株式会社の工場見学を行いました。

まず、トヨタ自動車についてのビデオを視聴した後、敷地内にいくつもある工場をバスで移動しながら見学をしました。札幌ドーム18個分の広大な敷地内では、約3000人の従業員が働いており、トヨタ自動車の歴史と大きさを肌で感じました。

研修会後には、恵庭市内で慰労会が行われ、近況報告や本年の作柄についての情報交換などでおおいに盛り上がりしました。



豊穣の秋に感謝を込めて

11月25日（火）、南幌神社において収穫感謝祭が行われ、林組合長をはじめ、全役員、青年部長、女性部長、各部署の部・室・次長が参加しました。

今年は、大きな自然災害や天候不良もなく、豊穣の秋が迎えられた1年となり感謝の気持ちを込めて玉串奉奠を行いました。

来年も、今年以上の豊穣の秋を迎えられるように、また、組合員、JA職員等の無病息災を祈願して、お祓いをしていただきました。



女性部短信

JA常勤理事・女性部意見交換会

12月5日（金）、町内にてJA常勤理事と女性部の代表者で意見交換会を行いました。

林組合長の挨拶により始まった意見交換会では、JA常勤理事と女性部がお互いの考えを話し合うほか、11月に十勝方面で開催した、女性部役員視察研修で学んできたことや体験してきたこと等を報告しました。JAからは、今後の女性部活動に向けた助言を多数いただき、活動へのアイデアが広がる有意義な時間となりました。

女性部長からは、「昨年に続き、良い意見交換をすることができた」との声が聞かれました。今後女性部では、JAとの交流を大切にし、活動に励んでいきたいと思っています。





発行者
JAなんぼろ青年部
編集責任者 石川 卓也

JA常勤理事と交流を深める

11月28日（金）、町内にてJAの常勤理事と交流を行いました。

林組合長、若杉部長の挨拶と、高島専務の乾杯により始まった交流会は、JA役員と青年部がお互いの考えを話し合うほか、農業情勢に関する意見交換や近況報告をし、おおいに盛り上がりしました。最後に石川副部長より、来年の抱負とともに締めめの挨拶があり、交流会は終了しました。

参加した盟友からは、「JAの役員と話す機会は減多にないため、このような場があつてうれしい」との声がありました。

今後も青年部では、JAとの交流を大切に活動していきたいと思えます。



若手農業者勉強会を開催

12月2日（火）、青年部主催で、若手農業者勉強会及び意見交換会を行いました。当日は、7名の盟友と3名の町内若手農業者が参加しました。

今回の勉強会では、空知農業改良普及センター空知南西部支所の職員を招き、水稻、小麦、蔬菜についての講習を受けた後、意見交換を行いました。水稻は近年の温暖化の影響と対応策についてや湛水直播の実績について、小麦は「きたほなみR」の萎縮縮病の抵抗性について、蔬菜はネギアザミウマ等の害虫の動向と対策について説明がありました。勉強会終了後には意見交換会が開催され、次世代を担う若い農家の想いや疑問を普及センターに投げかけていました。青年部では今後も勉強会等を通し、若手農業者や町内の農業者と一緒に勉強できる機会を作っていきます。



全道JA青年部大会に参加

12月4日（木）から5日（金）にかけて、札幌パークホテルで開催された第74回全道JA青年部大会に盟友3名が参加しました。

当日は、全道の盟友約800名が一堂に会し、令和7年度全道JA青年の主張大会や第50回全道JA青年部活動実績発表が行われ、全道大会に出場する単組のハイレベルな発表のなか、空知地区代表のJAきたそらち青年部が、青年の主張において最優秀賞を受賞し、1月に開催される東北・北海道ブロック大会で発表することが決まりました。

また、大会終了後の懇親会には、アームレスリング大会や純農Boyオーディションが開催され、地区の垣根を越えた交流がされました。





発行者
JAなんぼろ青年部
編集責任者 石川 卓也

海外視察研修報告

JAなんぼろ青年部

副部長 石川 卓也



10月27日から11月1日にかけて、JA空知青年部の海外視察研修で台湾へ行ってきました。JAたきかわや峰延、由仁など各単組の代表が集まり、ガイドを入れて8人で行きました。

人口は約2,300万人。島の北部は亜熱帯、中部から南部は熱帯気候となり、この時期は山からの季節風が常時吹いています。

視察1ヶ所目は国際空港のある桃園市の源鮮智慧農場へ。ここは新鮮と安全を理念にスマート農業を展開し、垂直式水耕栽培という棚のように縦方向で作物を育て、常に最適な温度、肥料、日照の管理の下生産されています。

野菜や薬味などの香辛料を作っており、レタス系は生産量の70%を占めています。1日1,200kg生産しており、コストコ等に出荷されているようです。育苗時には音楽を流すことにより、生育が促進されるそう。

日照となるLEDライトにも工夫がされており、きゅうり、トマト、ナスそれぞれ違う発光色のライトを使用しています。

水耕栽培なので水の中には良い菌と悪い菌が入っています。その悪い菌を殺すために農薬を使わず、豆乳を利用し良い菌を増やすことで解決しています。

近年、食の安全が問い立たされている中、こういった自然環境から切り離れた完全管理下での無農薬栽培は、安全を求める消費者のニーズに沿った取り組みとして賞賛できると思います。とはいえ簡単に真似できるようなものはないし、植物工場に違和感を覚える消費者も一定数はいることでしょう。例えばもやしは水耕栽培で工場生産されるのが一般的ですが、誰もそれを気にせず使っています。もう土から作ることに囚われる時代ではなく、様々な野菜を水耕栽培で作り、それが主流の時代がいつか訪れるような印象を受けました。

2ヶ所目は新幹線で南部の高雄に渡り、恒春農会という日本では農協に位置する組織を視察しました。

この農会は玉ねぎの取り扱いがメインで、収穫機などの機械のレンタルも行っています。米もありますが、台湾では直播が主流で移植栽培はほぼ行われていません。ちなみに概算金は日本円で6,000円/俵。政府備蓄米向けだと7,800円/俵でした。JAなんぼろでは30,000円/俵で大差がありますが、副産物扱いなのと、育苗、施肥は農会の業者が行っているため農家負担が日本ほどなく、機械も持つ必要がないため妥当な金額と言えるでしょう。事業の中には海や山から流れてきた流木を利用しペレットを作り、燃料として販売も行っていました。

近年の温暖化の影響が顕著にあるらしく、高温により低地での作付け可能面積が減少しているようです。山側の標高の高い涼しい土地を求めて開拓しており、低地の田んぼだった土地は沼化してレンコンを作ったり何かの養殖場に利用したり、ドラゴンフルーツやバナナ畑に転用していました。

続いて視察したところは恒春農会に所属している大和農場で、ここは玉ねぎのみを生産しています。この農場は日本のクボタと連携しており、今年買った移植機は兵庫から取り寄せてくれたそうです。

圃場は1枚あたり3反ほど。比較的平坦な立地なのに小さな田んぼばかりなのは、玉ねぎを植え付けた後に水を張り、速やかに抜き切るために大きく出来ないのとこと。日本で同じことをすると苗が腐ってしまうので、台湾独自の手法になります。

日本と違い、自分で市場まで出荷しなければならず、その市場も台北にあるので高速を使っても時間以上走らなければなりません。それでも台湾中部で生産している玉ねぎ農場よりは利益があるようで、大和農場は長期貯蔵ができる品種を作っているため、価格が上がったタイミングで出荷することで利益を出しているとのこと。温暖化によって作れなくなる、移動を余儀なくされる新しいものに転換する。避けられない気候変動にうまく対応し、地の利を生かして持続できる営農を展開していく。台湾の農業は温暖化後の日本の姿なので、可能な限り学習し、応用していくべきだと思います。

長船技師による営農情報！



2026年(令和8年)の干支は午年(うまどし)

1 午年(うまどし)とは

新年明けましておめでとうございます。

「午」は12支の7番目で、動物の馬が当てはめられています。そのため、十二支の「午」には馬から連想される「スピード」「行動力」「社交性」「勢いや力強さ」などの意味があります。また、「午」という字に「草木の成長が極まって衰えの兆しが見え始める状態」という意味があります。「午」は南の方角や太陽が一番高く昇る正午を象徴する十二支でもあるため、「火の気」や「勢いや運氣が最高潮に達している状態」を表しているとされています。

2 水稲作況と米価

明治27年(1894年)～平成26年(2014年)までの過去11回の午年の水稲作況指数と米1俵価格推移を下記の表にまとめました。昭和29年から平成26年までの6回の午年の内、冷害が3回、豊作が3回でした。米の一俵価格は昭和53年をピークに低下しています。さて、本年はどうなるか、豊穰の秋を祈願するところです。

午年の水稲収量(kg/10a)・作況指数と販売価格の比較

西 暦	元 号	収量kg/10a	作況指数	1俵(60kg)価格	備 考
2026	令和8年				
2014	平成26年	577	107	12,142円	
2002	平成14年	482	91	14,295円	遅延型・障害型冷害併行
1990	平成2年	540	109	16,500円	
1978	昭和53年	536	118	17,251円	
1966	昭和41年	283	73	7,140円	障害型冷害
1954	昭和29年	177	60	4,003円	遅延型冷害
1942	昭和17年	244	—	17円56銭	
1930	昭和5年	231	—	8円	
1918	大正7年	198	—	14円60銭	
1906	明治39年	176	—	5円28銭	
1894	明治27年	255	—	2円64銭	

○北海道の水稲作付面積と反収の推移・作況指数から抜粋
○理科年表2026
○米価の推移(政府買入価格 明治21年～平成8年)
○平成14年・26年産米の相対取引価格 農林水産省

マネロン・金融犯罪対策への取組強化について

令和8年1月

代表理事組合長 林 裕司

最近、様々な金融犯罪が発生し、その手法や手口も巧妙かつ高度になってきています。新聞等での報道を見て心配に感じておられる組合員・利用者の方々も多いのではないかと思います。また、国際的に金融機関が取り組まなければならない課題として、マネー・ローンダリングおよびテロ資金供与対策（以下「マネロン対策」）の重要性が益々高まっています。マネロン・金融犯罪対策に取り組むことは、組合員・利用者の方々の大切な財産をお預かりし、信用事業を営んでいる当組合の責務でもあります。

当組合では、金融機関としての信頼性を確保するため、そして、お客様の大切な財産を金融犯罪からお守りするために、当組合の基本理念である「最幸の信頼・利用・満足を実現し、組合員と地域社会に安心を届けます」のスローガンのもと、マネロン・金融犯罪対策の取組みを重要な経営課題と位置づけて、一層力を入れて取り組むことといたします。

このたび、金融部長と金融課長をマネロン・金融犯罪対策リーダーに任命し、組合全体としての取組みの定着化・高度化に向けて、職員の先頭に立って取組みを進めてもらう予定です。私を含め常勤理事もマネロン・金融犯罪対策が組合内で徹底されるよう指揮のうえ、組合員・利用者の方に安心して当組合を利用いただけるよう取り組んでまいります。



理事会報告

12月8日

12月定例理事会で審議された主な内容について、次のとおり報告申し上げます。

【議案】

1. 出資金の減口について

【報告事項】

1. 秋の経営懇談会の開催内容について
2. 第7回 営農振興組合長会議の開催結果について
3. 11月末 農産物保管状況について
4. 11月末 蔬菜販売状況について
5. 定款第54条第3項の規定による利益相反取引について
6. 11月期 J Aローンの貸付について
7. 内部監査の実施報告について
8. 組合員異動状況について
9. 令和7年度 第3四半期の固定資産取得、処分について
10. 固定資産の賃貸について
11. 令和8年度 職員採用計画について
12. 永年勤続表彰と記念品について
13. 11月末 財務状況について

J Aスマホ教室を開催

12月17日（水）、エコープなんぼろ店2階にて、J Aスマホ教室を開催しました。

当日は、au Style 野幌の社員を講師に招き、午前の部と午後の部の二回に分けて講習を行いました。

今回の講習は、主にLINEの使い方を中心とした話が進められ、インスタールの仕方、トークの送信からスタンプの押し方など、全くスマートフォンを使ったことがない人でもLINEを楽しむことができる内容でした。

今後もJ Aバンクなんぼろでは、お客様が快適に生活できる環境作りに努めて参ります。



～表紙の紹介～

◎今月号の表紙は、午年生まれの当J A職員の7名に表紙を飾っていただきました。



私達のJ A

令和7年11月末日現在

組合員	2,603名
(前年同期比)	▲15名
正組合員	408名
(前年同期比)	▲4名
准組合員	2,195名
(前年同期比)	▲11名
正組合員戸数	256戸
(前年同期比)	▲4戸

編集後記

新年あけましておめでとございます。本年もJ Aなんぼろ及び、くみあいだよりをよろしくお願いいたします。

2025年も風のように早く過ぎ去りましたが、この一年特に何もせずに終わってしまったような気がします。今年こそは何か新しい趣味を見つけて新しい自分に出会いたいと思います。

くみあいだより担当の上地も午年の書初めをしました。（上地は巳年生まれ）

